



ツバメが低く飛ぶと、雨が降るといのは本当なの

だいたい正しい

ツバメは、飛びながら、こん虫をとらえています。晴れた日は高く飛び、雨の日は、川の水面すれすれに飛び、ユスリカなどをとらえて食べます。ツバメの、このような習性から、「低く飛ぶと雨が降る」などといわれているのです。

雨の前には、虫が低いところを飛ぶ

天候によって、こん虫の活動には、ちがいがあります。低気圧が近づき、雨が降り出しそうになると、気温や湿度も上がり、虫の動きが活発になるようです。気圧が低いとき、虫は、低く飛ぶようです。また、晴れて暖かい日には、虫は高いところを飛びます。虫を食べるツバメは、これを追って高く飛んだり、低く飛んだりするわけです。

気圧が低くなると、天気は悪くなります。ですから「ツバメが低く飛ぶと雨が降る」というのは、だいたい正しいといえます。（監修・今泉 忠明）

